

平成 31 年度始業式校長講話

新しい年度が始まりました。先日、新元号が発表され、時代の始まりにわくわくする気持ちです。残りひと月足らずで「平成」が終わりますが、皆さんにとって「平成」はどんな時代でしたか？

皆さんの生まれたころには、映画「千と千尋の神隠し」の公開、今主流の「なんちゃって制服」のブーム、など、流行とは消えるものもあれば、16年たった今も流れが継続しているもの、良いものは良いものとして心にとどまっているものがあります。ヒット曲は「世界に一つだけの花」、森山直太朗の「さくら」今なお、皆さんも知っている曲として心に残る、当時では衝撃的なヒット曲でした。

新元号は「令和」に決まり、美しい響きに感動をした皆さんも多いのではないのでしょうか。安倍首相の談話にもありましたとおり、この言葉が示す意味に「明日への希望とともに大きな花を咲かすことのできるそんな国になりたい」と希望を述べておられました。これは、まさに「世界に一つだけの花」から着想を得たとのこと。人々の心にずっと残る、記憶にも記録にも残ったこの歌詞の持つ力が、次の時代へとつながる瞬間を垣間見た気がいたしました。

さて、今長野県では「学びの改革～夢に挑戦する学び～」が指針として大きく掲げられています。皆さんがこれからの激動の社会を強く生き抜く力をつけるべく、着手したものです。そのひとつとして、講義型授業からの脱却、ICTの教育的活用、主体的で対話的な学びの推奨と、皆さんの学びのスタイルを概念から大きく変えようとしてきています。ここまで、話には聞いてきたという人もあろうかと思いますが、ここまで皆さん自身は、学びの場を広げてきたでしょうか？

人は経験したことでしか物を語ることはできません。本で読んだ、人から聞いただけの知識は、空想上の体験でしかありません。

ランの花ってどんな匂い？春菊っておいしいの？今世界の人は何を考えている？外国の空気ってどんな匂い？実際に経験して肌で感じることはとても大切なことです。そして失敗することも大きな財産になります。

今ここに立っている私自身にも全く同じことが言えます。須坂東高校のことをまだ見聞きした知識でしか知らず、校外で活動している皆さんがどんな活躍をし、そんなことに不安を抱え、何に向かって夢を語ろうとしているか。まだ、HP上の記載でしか皆さんが見えていない私は、これから皆さんが繰り広げる世界に触れることをとても楽しみにしています。

皆さんとの出会いにあたり、私のここまで過ごしてきた教師としての信念をお話しします。お勉強ができるとかできないとか、スポーツができるとかできないとか、私は人間の価値をそこで判断してきたことはありません。高校生の行うことは実に創造的で刺激的であり全て応援したいと思っています。しかし絶対に許せないことがあります。それは「ありがとう」の挨拶ができない人と、掃除の時間に逃げる人。すべてに感謝の気持ちを持ちながら日々心を美しく生活することはよりよく生きる未来への第一歩であると考えます。

ここにいる2, 3年生、414名。新1年生を合わせると全校で608名。皆さんとたくさん時間を共有しながらこの学校が今後どのような評価をされる学校になっていくのか、よりより学校

づくりのために精一杯尽力したいと考えています。須坂東高校 608 名のうち、たった一人がマナーを守れなかったり挨拶ができなかったり、地域から疎まれる行動があれば、それは $608-1=607$ の評価でなく、実は $608-1=ゼロ$ になります。それが社会の評価というものです。そして残念なことにその評価は何年も消えることはありません。

これから何度かお話しすることがありますので、たくさんのごことを皆さんと一緒に考えていきたいと思いますが、本日皆さんとの出会いに先立ちお話ししたことを心の片隅に留めていただき、平成から令和へ、明日への希望をもち大きな花を咲かせられるような希望に満ちた素晴らしい 2019 年度のスタートがきれいを願っております。